極悪飛童

gokuaku bido

牧野節子

makino setsuko

飛童

tokubetsu bido

牧野節子

makino setsuko

♪ *Special Thanks* ♪
Editor: Kei-Tsukui,
Akiko-Kunito.
Isao-Saso,
Musician: Susumu-Terada,
Takashi-Hamazaki,
Takashi-Ikeda.
Teacher: Toshihide-Kunimatsu.
Masako-Obi,
Yoshitomo-Imae,
& Many Many Friends.

ふんわりCollection

極悪飛童

1992年12月25日　第1刷発行

著者—牧野節子

発行者—水谷雄二

発行所—株式会社文溪堂

東京都豊島区高田3-32-1
電話(03)5992-2011(営業)(03)5992-1166(編集)
振替　東京4-167627

印刷—三美印刷株式会社

製本—株式会社若林製本工場

©Setsuko Makino, Kazato Nagahata. Printed in Japan
落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。
定価はカバーに表示してあります。
ISBN4-938618-66-4

極悪飛童●もくじ

極悪飛童 6
紙面素歌 21
我心笑単 35
夢味乾想 51

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

色息世空（しきそくぜくう） 67

自望自責（じぼうじき） 83

満心創意（まんしんそうい） 98

安宙摸索（あんちゅうもさく） 113

輪廻天唱（りんねてんしょう） 130

装画　永畑風人
装幀　菊地信義

極悪飛童（ごくあくひどう）

極悪飛童

「極悪飛童」。あたしの、好きな、バンド。

毎週日曜日。原宿ホコ天にバンドをみにいくことだけが、あたしの楽しみだ。そのほかにおもしろいことなんか、ない。生きてくのって退屈だ。毎朝起きて、パン食って、学校行って、学校から帰ってきて、テレビみて、飯食って、風呂入って、寝る。そのくり返し。

初めてホコ天行ったのは、一年前。クラスメイトの由美と純子に誘われて。

ふたりは、「ジュリア」っていうギンギンヘビメタバンドのファン。髪を虹色の

カラー・スプレーでかためて、顔もばっちりメイクして決めてるバンド。ホコ天人気ナンバーワン。

リズムに合わせて「たてノリ」してる由美と純子の後ろ姿みながら、あたしの耳は他の音をとらえた。

（……あっち、だ！）

通りをへだてて斜め向こう。からだがひきよせられる。

——ウキウキアーアー、オオオーッ！

叫んでるリード・ボーカル。それを際立たせてる、バックのサウンド。

（すげえ！）

——僕は僕を信じて！

あたしのからだん中、血が流れてる。

——君は君を信じて！

あたしの心臓は、ちゃんと動いている。あのドラムスのビートみたいに、リズムを刻んでる。

バス・ドラムに、マジックで書きなぐったバンド名「極悪飛童(ごくあくひどう)」。

あたしは、音に包まれて、からだがとろけちまうかと思った。

……どれぐらい、そうしていたんだろう。

「どうしたんだよぉ！」

由美(ゆみ)の声に、ふいっと気がつくと、あたりはたそがれてて、極悪飛童も演奏終わって、水色のバンに楽器やアンプ積み込んでる。

「さがしてたんだぜ。黙っていなくなるなよ」

「うん、ごめん」

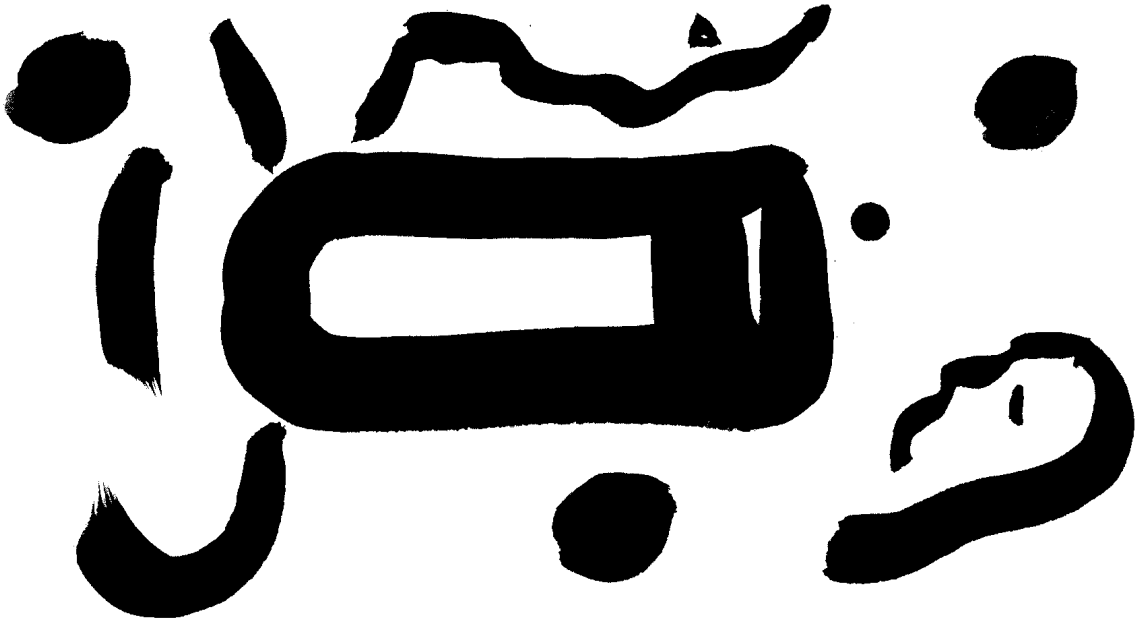
「なんだよ、かなしばりから解けたみたいな顔しちゃって」

「え、そう？……」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

「加南、あのバンド、気に入ったの？」
純子が水色のバンのほうをあごでしゃくった。
「やめときな。ファン、オバンばっかだろ」
由美は、高校生以上のことを「オバン」とよぶ。
帰りの電車の中で、純子が続ける。
「中学生のノリは、ジュリアよ、やっぱり。愛想いいしね。極悪飛童は、なんかぶすっとしててさ、近寄りにくい」
「ボーカルのタカは変態だぜぇ、マイク股間にもってったり、歌ってるときなんか、目、すわっちゃってるだろ」
「タカっていうの？」
「そう。それに、いつも帽子まぶかにかぶってて絶対はずさないの。若ハゲかも、ね」

「メンバーみんな、むかし暴走族だったって噂。ま、それはいいけどな」
「くわしいじゃん、ふたりとも」
「そりゃ、うちら、ホコ天のベテランだもの」
「ふうん。でもさー、タカってひと、変なポーズとっててもー、不思議と卑猥じゃないんだよね。なんか、品があるっていうか。歌声はホットで、だのに切なくて。目は澄んでてバンビみたいだし、うすい唇から真っ白い前歯が二本、ビーバーちゃんみたくのぞいて……」
由美と純子は顔をみあわせ、首を振った。
「だめだ、こりゃ……」
うちに帰ると、ママは水割りを飲んでいた。
ごはんをよそってるあたしに、言う。
「ママね、やっぱりパパと別れようと思うの」



「ママの、好きなようにすればよいよ」
ママはふーっとためいきをつく。
「あんたって、冷たい子ね」
……だって、なんて言えばいいのさ。
ママはあたしが小学生の頃から、おんなじことを言っている。だのに実行したためしがない。ママはいつだって、言うだけなんだ。パパは四年も前にとっくに家を出ていって、毎月銀行口座にあたしたちの生活費を振り込んでくる。冷たい子だとかいわれても……あたしに、なにができるっていうのさ。
「ごちそうさま。おやすみなさい」
あたしは自分の部屋に入ってドアを閉めた。
翌朝、あたしはまた起きて、パン食って……そうして、日曜日はホコ天。
由美と純子はジュリアにべったり。握手したり、色紙にサインもらったり。あ

たしは、極悪飛童の演奏きいてるだけだったけど、それでも日曜日だけは、ごきげん、な、一年間、だった。

その一年のうちに、パパとママは正式に離婚した。その時あたしは、やっぱり「好きなようにすれば」って言って、「冷たい子ね」って、言われた。

中三になった春から、由美と純子は、ホコ天に行かなくなった。

純子には、彼氏ができたんだ。日曜日はデートで、ホコ天どころじゃないってわけ。

由美は柄にもなく、こんなことを言いだした。

「中三だぜ、中三。受験だよ、受験。ガキみてーなことやってらんねえよ、いつまでも」

そうして、代々木ゼミに通い出した。

「それにジュリアはプロ・デビューするんだ。これから、テレビでいつでもみれるさ」

あたしは、ひとりだけ、おいてけぼりをくった気分。それでも、ひとりで、ホコ天通い。

だけど、だけど……。

極悪飛童も、ホコ天を引退することになっちまった。理由は「バンド・ブームでホコ天にもバンドが増えすぎ、音がまざりあって、よい演奏ができなくなったから」って、音楽雑誌の「アマ・バンド特集」の隅っこに、書いてあった。続けて、「極悪飛童の柴崎貴司くんは新入社員。『サラリーマンとバンドの両立はたいへんです』」って、タカのコメントが、載ってた。

極悪飛童の、ホコ天最後のライブ。最後だからって、ジメッなんてしない。いつも通りの迫力。だけどいつもよりずーっと長い演奏。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb